

2026年3月25日  
損害保険ジャパン株式会社

**損保ジャパンがNPBパートナーに就任し、救援投手を称える新賞を設立！**  
**「損保ジャパン HIKESHI 賞」発表会を開催**  
～プロ野球OB 五十嵐 亮太氏 × プロ野球ファン 磯山 さやか氏が登壇～

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：石川 耕治、以下「損保ジャパン」）は、一般社団法人日本野球機構（以下「NPB」）とNPBパートナー契約を締結し、2026年レギュラーシーズンよりNPBセ・パ両リーグの救援投手を表彰する新賞「損保ジャパン HIKESHI 賞（以下「HIKESHI 賞」）」を設立します。あわせてHIKESHI 賞の設立を記念し、2026年3月25日（水）に損保ジャパン新宿本社ビルでPR発表会を開催しました。

当日は、代表取締役社長の石川 耕治が、損保ジャパンのルーツである「火消し」の精神を救援投手の姿に重ね合わせた新賞設立の背景についてプレゼンテーションを実施しました。さらに、プロ野球OBの五十嵐 亮太さんとタレントの磯山さやかさんをゲストに迎え、「ピンチを救うための備え」についてトークセッションを行いました。



## 1. 背景・目的

損保ジャパンは、1888年（明治21年）に日本初の火災保険会社である「東京火災保険會社」として創業しました。「人々の暮らしを罹災からお守りしたい」という強い使命感のもと、保険会社でありながら、警視庁認可の私設消防団「東京火災消防組」を結成し、自ら「火消し」として地域を守ってきた歴史があります。

火消しをルーツに持つ損保ジャパンは「火消し役」と呼ばれる救援投手を1981年から22年間「ファイアマン賞」※1として表彰していました。

今回、現代のプロ野球にふさわしい形へアップデートした「HIKESHI 賞」を設立し、野球の新たな魅力をファンの皆さまとともに発見していくことを目指します。

なお、「HIKESHI 賞」は、「HIKESHI DNA 2030 Project」※2の一貫として実施します。

(※1) 1981年から2002年まで、当時の安田火災海上保険（現・損保ジャパン）が協賛していた救援投手の表彰制度。

(※2) [https://www.sompo-japan.co.jp/-/media/SJNK/files/news/2025/20260325\\_2.pdf](https://www.sompo-japan.co.jp/-/media/SJNK/files/news/2025/20260325_2.pdf)

## 2. HIKESHI 賞の概要

野球界では救援投手を「ファイアマン（火消し役）」と呼びます。試合の危機的状況で「守り抜く」という、火消し役としての精神は、損保ジャパンのお客さまをお守りするという事業精神と深く重なります。創業から135年以上の歴史を経た現在も「人々のくらしや幸せをお守りする」という火消しの精神を受け継ぐ損保ジャパンは、チームや仲間を守り抜く救援投手の活躍を応援するため本賞を設立しました。

対象 : 救援投手（先発投手以外）

開始時期 : 2026年3月27日のレギュラーシーズン開幕より

選考基準 : セ・パ公式戦の成績、日本野球機構および損保ジャパンが考案した客観的指標（データスタジアム株式会社協力）に基づく

評価指標 : ファイアマン賞で採用していた「勝利・セーブ数」などの指標とは異なり、登板時の走者状況といった「マウンド上の危機の大きさ」を反映。ピンチを凌いだことによる失点阻止の貢献度を数値化し、「チームのピンチをいかに食い止めたか」を定量的に評価します

計算式 :  $HIKESHI \text{ ポイント} = (A) - (B) - (C)$

(A) 走者状況に応じて重みづけされた獲得アウト価値

1アウト獲得につき1ポイント、さらに前任投手が残した走者がいる場合は加算あり。

一塁に走者がいれば1ポイント、二塁は2ポイント、三塁は3ポイントが加算される。

※前任投手が残した走者のみ対象とする（自身が出塁させた走者は対象外）

(B) 2 × 自身が出塁させた走者の数

併殺崩れで走者入れ替わりによる打者走者の出塁は含まない

(C) 4 × 登板中に許した得点

※前任投手が残した走者の得点を含む

賞金 : セ・パ1名ずつ各100万円

発表・表彰 : シーズン終了後（11月頃に実施予定）

特別賞 : 損保ジャパン HIKESHI 賞・特別賞選考委員会による候補者選出後、ファン投票によりセ・パ1名ずつを決定。

※詳細は今後告知予定。

ロゴ : 上部には勝利へ導く白球を、下部には町火消しの象徴である「纏（まとい）」をコーポレートカラーで彩り、ダイナミックにデザインすることで、絶体絶命のシーンで戦う救援投手たちの誇りを力強く象徴します。



<「損保ジャパン HIKESHI 賞」特設ページ>

[https://www.sompo-japan.co.jp/company/initiatives/hikeshi\\_award/](https://www.sompo-japan.co.jp/company/initiatives/hikeshi_award/)

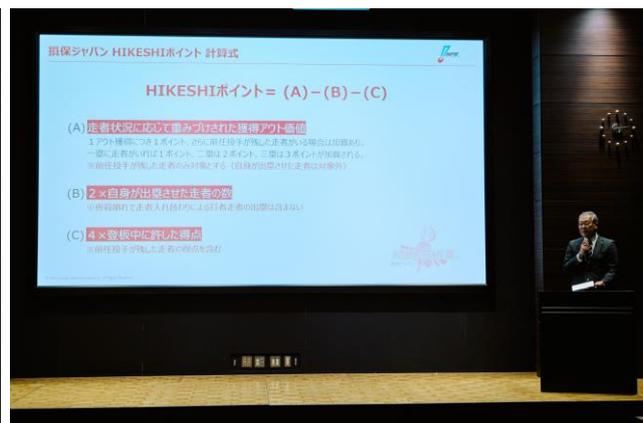
### 3. PR 発表会レポート

#### (1) 代表取締役社長 石川耕治が語る創業の歴史と「HIKESHI 賞」に込めた思い

PR 発表会では冒頭、会場の大型スクリーンにて「HIKESHI 賞」のロゴを冠したアタックムービーが上映されました。続いて登壇した代表取締役社長 石川耕治は、損保ジャパンのルーツである「火消し」に触れ、「人々の暮らしを罹災からお守りする」という創業当時の使命について語りました。「火消し役」と呼ばれる救援投手を表彰していた、かつての「ファイアマン賞」を現代のプロ野球にふさわしい形へアップデートした「HIKESHI 賞」を通じて、「火の車のようなピンチでマウンドに上がり、その時に投手が背負う心理的重圧、そして無失点で切り抜けた時に彼らがもたらす「安心感」の価値を、私たちは可視化し、称えたい」と新賞への思いを強調しました。

また、救援投手がピンチにおいても動じず「火消し」ができるのは、マウンドに上がる前の徹底的な「準備」、すなわち「事前の備え」にあり、保険というサービスを通じて、社会に「確かな備え」という名の安心をお届けしていきたいと語りました。

あわせて、NPB 事務局長 中村 勝彦氏、セントラル・リーグ運営部 部長 杵淵 和秀氏より、救援投手の「目に見えない貢献」を定量化する独自の評価指標について説明が行われました。



#### (2) 「守り抜くための備え」をテーマとしたトークセッション

後半は、ゲストの五十嵐亮太さんと磯山さやかさんが登壇し、代表取締役社長の石川耕治を交えたトークセッションが行われました。五十嵐さんは、マウンドでの冷静さを支えるのは徹底したシミュレーションであるとし、「事前の備え」と記したフリップを交えながら「シーズンをどう過ごすか、そして野球選手として掲げるビジョンを達成するためにも、備えが本当に大切である。」と力説。これを受け石川は、「準備でピン

チを安心に変える考え方は、保険の使命そのもの」と深く共鳴しました。磯山さんも「投手の安心感の裏にある備えを知り、本賞の意義を実感した」と述べ、会場の共感を呼びました。最後に、火消しを象徴する法被をゲストの二人が着用してのフォトセッションが行われ、発表会は締めくくられました。



#### 開催概要

日時 : 2026年3月25日(水) 11:00~12:00

会場 : 損害保険ジャパン株式会社 新宿本社ビル

登壇者 : 損害保険ジャパン株式会社 代表取締役社長 石川 耕治

一般社団法人日本野球機構 事務局長 中村 勝彦様

※賞選定基準解説 : 一般社団法人日本野球機構 セントラル・リーグ運営部 部長 杵淵 和秀様

ゲスト : 五十嵐 亮太様

磯山 さやか様

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

「損害保険ジャパン HIKESHI 賞」PR 事務局 (株式会社アンティル内) 担当 : 塚本、伊藤、鋤崎、渡邊

TEL : 03-6821-7863 FAX : 03-4335-8385 MAIL : [sompo\\_2026@vectorinc.co.jp](mailto:sompo_2026@vectorinc.co.jp)



#### HIKESHI DNA 2030 Project

「HIKESHI DNA 2030 Project」は、当社の原点である「火消しの精神」を今に受け継ぎ、地域と連携して「災害に強く、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現」を目指すプロジェクトです。